

IVR に従事する看護師の放射線被ばくに対する認識調査

【目的】intervensional radiology (以後、IVR) 学会では、放射線の防護教育の重要性を先行研究で述べているが、当院心臓カテーテル室の新人看護師は放射線防護教育について、プリセプターからの教育しかなされていない現状がある。そこで当院において、IVR に従事する看護師へ被ばくに対する認識調査を実施し、その現状を把握する。【方法】調査対象は当院で IVR に従事する看護師 (A 群: 心臓カテーテル室 B 群: 手術室 C 群: 脳アンギオ室) 68名とした。調査方法は各部署にアンケートを配布し、無記名質問紙用紙調査法を用いて、アンケートの回収をもって同意を得られたものとした (回収率81%:55名)。各群間においてアンケート内の、(1) 意識、(2) 知識についての設問を抽出し、平均スコアにて有意差検定を行った。さらに同様の方式で部署内の取り組みについても調査を行った。【結果】(1) の設問については、A 群と B 群、B 群と C 群、の間で比較したところ、B 群の意識が有意に低いことが分かった ($P < 0, 05$)。 (2) の設問についてもほぼ同様の結果が得られ、B 群の知識における平均のスコアが特に低かった。また、部署内の取り組みについては A 群、B 群が有意に低いスコアを示した ($P < 0, 05$)。【結論】結果より各部署において、被ばくに対しての認識が大きく異なることを示している。今後は各部署間での差を埋めるため、病院全体の取り組みとして統一された放射線防護教育の体制を整えることが望ましいといえる。